

AJEQ ニュースレター

夏季号の内容

シャロン代表への謝辞：小倉和子会長
ケベック側のインタビュービデオの掲載：宮尾尊弘理事
会員による寄稿と写真：矢内琴江会員と安田敬会員
AJEQ2013年度全国大会、研究研究会報告：小松祐子理事

シャロン代表への謝辞：小倉和子会長

去る7月6日、AJEQの定例研究会に先立ち、ケベック州政府在日事務所代表クロード＝イヴ・シャロン氏の歓送会が行われました。シャロン氏は2011年4月に着任し、この8月で任期満了となります。帰国後は、ふたたびケベック大学モントリオール校でご専門のコミュニケーション学を講じるそうです。

シャロン氏が着任したのは東日本大震災発生から間もない頃でした。困難な時期であったにもかかわらず、世界でも最大規模のフレデリック・バック展の東京での開催にご尽力くださいました。また、秋にはAJEQも共催したアジア・フランコフォン大学（UNIFA）に中国や韓国などから大勢の研究者が集まり、ケベックからはダニー・ラフェリエールが初来日したことが強く印象に残っています。7月6日には、シャロン氏は会食に引き続き研究会にも参加し、今年40周年を

迎える日本・ケベック交流の課題や今後の展望について、小畑精和顧問との対談に応じてくださいました。

現在AJEQでは、この40周年を記念する書籍の出版を準備中です。外交や市民交流、教育や研究、言語・文化、経済などの領域で、これまで日ケ交流に貢献のあった人々に依頼したインタビューや原稿を編集したものです。ケベックの人々の日本への関心はわれわれが想像する以上に強く、われわれもまた、インターカルチャリズムをはじめとして、ケベックから多くのヒントを得ることができます。ケベックの知られざる魅力を充分にお伝えできる内容になるはずですので、秋の刊行までもうしばらくお待ちください。

この企画をご提案くださったシャロン代表にこの場を借りてお礼を申し上げますとともに、ケベックでの新たなご活躍をお祈りしています。（小倉和子 AJEQ会長）



上、中は研究会での対談の様子
下はシャロン氏歓送会での写真

日本ケベック学会(AJEQ)とは

「日本ケベック学会」(AJEQ)は、日本でのケベック・フランコフォニーに関する学術研究・芸術文化交流などを振興し推進する学会です。ケベックやフランコフォニーにご興味のある方の参加をお待ちしています。

学会活動の詳細は以下のホームページ(HP)とブログをご覧ください。

HP: <http://www.ajeqsite.org/>

ブログ: <http://ajeq.blog26.fc2.com>

ケベック側のインタビュービデオ（抜粋）の掲載

日本ケベック交流40周年記念HP (<http://japon-quebec.com>)が完成しました。最終的に追加されたのは、ケベック側のインタビュービデオ(抜粋)のアップと、日本側とケベック側のすべてのインタビュー要旨の日本語と仏語による掲載です。

この最後のステップは、もちろんケベック側の全面的な協力のおかげで、州政府在日事務所のマルク・ベリボー氏がケベック

側のインタビュービデオの抜粋を作成し、またケベック州の担当者がそれをYouTubeにアップして、そのリンクを送ってくれた結果、可能になったものです。

ロベール・ルパージュ、フレデリック・バック、ジャック・ゴドブー、ジャン＝ルイ・ロアなどケベックを代表する人々のインタビューの様子が直に伝わってくる貴重なビデオですので、ぜひご覧ください。（宮尾）。

会員からの寄稿と写真

ケベック調査旅行の報告

矢内琴江（早稲田大学・大学院）

2013年3月、日本ケベック学会からの奨学金で、約3年ぶりにケベックを訪れた。今回の調査の具体的な成果については、研究大会での発表や論文で報告するとして、ここでは、いくつかのインタビューを実施することで、気がつき、学んだことを記しておきたい。

私の博士課程の研究テーマに、フェミニズムの視点からの美術館教育としている。特に、個々の教育的事業ではなく、こうした視点から美術館で教育に携わるためのコーディネーターあるいは学芸員の養成・研修に関心をもっている。その中で、ケベックでの実践に着目しており、奨学金に応募した。今回のケベック旅行の第一の目的は、モンリオール市にある、女性アーティストによって自主運営されているフェミニズム・アートのアート施設、ラサントラル／ギャラリー・パワーハウスで働く、コーディネーターたちへのインタビューと、資料収集だった。また、他のフェミニズムの視点をもったギャラリーや団体の関係者へのインタビューと、ケベック州の美術館や博物館の教育部門で働く職員へのインタビューの実施も予定していた。

2週間の滞在のほとんどは、モンリオール市で過ごした。そこで、ラサントラルに関する調査、ラサントラルとは別のフェミニズム・アートのギャラリーへの訪問と関係者とのコンタクト、フェミニズム・アートの若手のアーティストたちとつながりを作ることが出来た。また、モンリオール近代美術館、現代美術館では、教育担当の学芸員にインタビューを実施した。美術館ではないが、市民によって作られ、地域に根ざすミュージアムという理念を掲げた、エコミュージアム・フィエール・モンドでのインタビューも実現することが出来た。ケベック市では、ウルスラ修道女歴史博物館を訪問し、教育担当学芸員にインタビューを実施した。また、調査とではないが、筆者が2009-2010年に在籍していたラヴァル大学のフェミニズム・スタディーズで、ジェンダーの視点からの東日本大震災以降の課題を、特に福島県の状況について、私自身が関わる取組みなども紹介しながら報告をした。

今回、インタビューの協力者たちから、インタビューの中で、いくつか印象に残る言葉を聞いた。「毎日仕事に追われていたので、語ることで、自分が今までどんな仕事をしてきたのか気がついた」「意識していなかったが、自分が大事にしていた視点が言語化された」などである。こうした声は、私に関わる社会教育現場での職員研修や、成人学習の場でも頻繁に聞かれる。また、私自身が、学習者として体験したことでもある。しかし、言語、国境、人種を超えても、こうした声を聞くことが出来たのは、新鮮だった。また、インタビューの最中に、私が日本での女性たちや、社会教育施設などでの取組みについて話したとき、「ほとんど知らない日本の女性たちの状況について学ぶことができた」「（日本での取組みを）ここでも取り入れてみたい」という反応を得ることが出来た。それは、私自身が、日本での取組みを、捉え直すきっかけになった。今回の調査では、ケベックと日本という異なる文化で行われている実践であっても、単に実践モデルを知るというのではなく、実践を通した思いや気づきも共有していく過程で、互いの実践の意味について考え、また例えば大きな性差別という問題について、ともに考える時間をもつことが出来た。実践を省察的に聴き・語り合うことは、世界規模で抱える課題を、ともに解決する人間関係を作るのではないか、ということに改め気づかされた。

このような充実した調査旅行の機会を与えて下さった日本ケベック学会に、心から感謝を申し上げます。

モンリオールでの新旧の対比

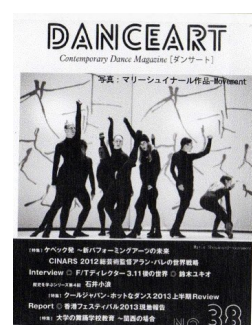
安田 敬（ダンスカフェ）



オールド・モンリオール地区



セント・ジョセフ寺院の写真



パフォーミングアーツ

AJEQの活動：全国大会と研究会について

AJEQ2013年度全国大会の概要

日程：2013年10月12日（土）

会場：関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパスF号館

住所：兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

概要（7月現在の企画案の要点）：

○自由論題：

3名の会員による発表で、それぞれのテーマは、ケベックのナショナリズム、フェミニスト・アート、およびロベール・ルパージュについて等

○ワークショップ（ベルギー研究会との共催）：

テーマは、「ケベックとベルギー：フランス語圏の多元社会—言語、政治、文学—（仮題）」

○基調講演・日本ケベック交流40周年記念シンポジウム

基調講演者：Ook Chung（ウーク・チャング）氏

シンポジウムでは、ケベックの創造性に焦点を当て、現時点（7月現在）のタイトルは「ケベックの創造性—ナショナルとトランスナショナルの狭間で」。内容については、基調講演と連動する形で、40周年記念出版編集委員会を中心に企画を練る予定。

なお、Ook Chung氏の略歴は以下の通り。

日本生まれのケベックの作家で、韓国人の両親を持つ。マギル大学よりフランス文学で博士号を取得。これまで6篇の小説を発表し、2002年には小説『キムチ』でカナダ・日本文学賞を受賞。

AJEQ研究会報告（7/6）：小松祐子理事の報告

シャロン代表と小松会員の発表

日時：2013年7月6日（土）14：00～16：15

会場：立教大学 池袋キャンパス 本館 1201教室

第1部：14：00～15：00 dialogue informel avec M. Claude-Yves Charron autour du theme “Quarante ans de relations Quebec-Japon : Quelques enjeux, contraintes et perspectives de developpement”

シャロン代表の任期満了にともなう帰国を前に、AJEQ会員との意見交換会が開かれた。州政府在日事務所開設40周年という節目を迎え、日ケ関係の課題や今後の展望を考えることを目的とした会となった。小畑精和顧問（明治大学）が対話者を務めた。

日本とケベックがお互いに対して持つイメージに

についての意見交換があり、その上で日本とケベックがお互いに尊敬の念をもちつつ、将来に開かれた関係が築かれていることを確認した。

第2部：15：15～16：15 報告タイトル「ベルギーの言語状況と言語教育政策、およびケベックとの比較のためのいくつかのポイント」

報告者：小松祐子会員（筑波大学）

コメンテーター：矢頭典枝会員（神田外語大学）

報告では、まずベルギーの言語状況を確認した後、ベルギーとケベックの社会言語学的観点からの比較について、ベルギー連邦内のフランデレンとカナダ連邦内のケベックの相違が検討され、いくつかの共通点と相違点が指摘された。詳細はブログを参照。

<http://ajeq.blog26.fc2.com/blog-entry-95.html>

後記

小倉会長の巻頭言にありますように、州政府事務所のシャロン氏がケベックに戻られます。同氏には、モントリオール在住中にもお目にかかったことがありますが、ケベック大学で教鞭を取られていたこともあり、その頃から若手研究者に積極的に声をかけていらしたことが、印象に残っています。本号では若手研究者に寄稿いただきましたが、シャロン氏に倣って、若い力の活躍に期待していきたいと思えます。お忙しい中を投稿いただいた方々に心より感謝申し上げます。今後ともみなさんからの投稿をお待ちしています。山出

AJEQ ニュースレター

年3回発行
発行人・小倉和子
編集人・山出裕子
日本ケベック学会

AJEQ ホームページ

日本でのケベックおよび
フランコフォニーに関する
学術研究・芸術文化交流を
振興し推進する学会のHP

日本ケベック学会（12年10月～）

●主要役員

広報委員会

小倉和子（会長）	山出裕子
竹中 豊（副会長）	小松祐子
立花英裕（副会長）	安田 敬
小畑精和（顧問）	宮尾尊弘
クロード＝イヴ・シャロン（顧問）	

*シャロン氏は、ケベック州政府
在日事務所代表（2013年7月現在）。